

「国際禅研究プロジェクト」活動報告

1. 研究組織ならびにプロジェクト会議

○研究組織

全体の統括を行う研究代表者の下に、「中国における禅の形成過程の解明」を目的とする第Ⅰ部会と、「日本における禅思想の受容過程の解明」を目的とする第Ⅱ部会を設置し、以下のような人員配置を行った。

研究代表者 伊吹 敦（東洋大学教授）

第Ⅰ部会

1. 初期禅宗文献のテキスト研究
伊吹 敦
程 正（駒澤大学仏教学部教授）
2. 唐から宋に至る禅思想史の解明
伊吹 敦
齋藤智寛（東北大学文学研究科准教授）
柳 幹康（花園大学文学部准教授）
3. 禅問答・公案の研究
土屋太祐（新潟大学人文社会教育科学系准教授）

第Ⅱ部会

1. 奈良・平安時代における禅受容過程の解明
伊吹 敦
2. 鎌倉時代における禅の受容過程の解明
館 隆志（東洋大学東洋学研究所客員研究員）
何 燕生（郡山女子大学短期大学部教授）
3. 禅文化の研究
原田香織（東洋大学文学部教授）
村松哲文（駒澤大学仏教学部教授）
ディディエ・ダヴァン（国文学研究資料館研究部准教授）

4. 日本禅の海外への展開伝播過程の解明

伊吹 敦

研究支援者 金子奈央（中村元東方研究所）

板敷真純（東洋学研究所奨励研究員）

リサーチ・アシスタント 通 然（東洋大学大学院）

○プロジェクト会議

研究活動を円滑に行うために、国際禅研究プロジェクトでは定期的に会合を開いている。本年度前期（4月～9月）に開催したプロジェクト会議は以下の通りである。

第1回 日時：2018年6月16日（土） 12：00～13：50

会場：東洋大学白山キャンパス 文学部会議室

第2回 日時：2018年9月22日（土） 13：00～14：15

会場：東洋大学白山キャンパス 文学部会議室

2. 定例研究会

本年度前期（4月～9月）に本プロジェクトが開催した定例研究会での研究発表は、以下の通りである。

第I部会

第1回（国際シンポジウム「フランスの研究者による禅研究」と併催）

日時：2018年6月16日（土） 13:30～17:50

会場：東洋大学白山キャンパス 6201教室

ディディエ・ダヴァン（国文学研究資料館准教授）

「大燈派の特徴を考えて—公案の扱いを中心に—」

張 超（日本学術振興会外国人特別研究員・駒澤大学研究員）

「大慧派禪僧仲溫曉瑩及宋代禪林筆記文」

フレデリック・ジラル（極東学院名誉教授・駒澤大学研究員）

「玄奘と日本の禅宗—新しい寺院のモデルを求めて」

第Ⅱ部会

第1回（国際シンポジウム「初期禅宗研究の最前線」と併催）

日時：2018年9月22日（土） 14:30～17:50

会場：東洋大学白山キャンパス 第3会議室

程 正（駒澤大学仏教学部教授）

「吐魯番地方における禪籍の流傳—ドイツ藏吐魯
番漢文文書中の禪籍残片を手がかりにして」

定 源（上海師範大学敦煌學研究所准教授）

「新出の北宗禅籍『金沙論』について」

3. 公開講演会・国際シンポジウム

本年度前期（4月～9月）に本プロジェクトが開催した公開講演会、ならびに国際シンポジウムは、以下の通りである。

○公開講演会・国際シンポジウム

第1回（国際シンポジウム「禅の形成と世界における展開（禅的形成及其在世界的展开, “Chan & Zen & Seon: The Formation of Chan Buddhism and Its Spread in the World”）」武汉大学国際禅文化研究中心等との共催）

日時：2018年5月4日（金）～5月6日（日）

会場：武汉大学 国際禅文化研究中心

5月4日（金）

* 開会式にて「国際禅研究プロジェクト」を代表して伊吹敦教授が挨拶を行った。

原田香織（東洋大学）

“Master Hakuin Zenji and The Japanese Medieval Thoughts“

舘 隆志（東洋大学東洋学研究所）

「日本鎌倉時代禅林漢語」

村松哲文（駒澤大学）

「中国涅槃図像の変遷と禅」

程 正（駒澤大学）

「早期禅宗中佛弟子の意義—圍繞祖統說的成立」

柳 幹康（花園大学）

「《宗鏡錄》於鎌倉時期臨濟宗之容受」

朝倉友海（神戸外語大学）

「从牟宗三天台学的觀點看西田几多郎の禪哲学」

井上克人（関西大学）

「京都学派与大乗仏教—西田哲学之系譜」

何 燕生（郡山女子大学）

「在 Chan・Zen・Seon 中穿行的禪宗学者—金九經」

5月5日

伊吹 敦（東洋大学）

「禪宗在“人間佛教”理念中的位置」（主題発言）

5月6日

シンポジウムのエクスカーションである黄檗県の四祖寺・五祖寺の調査見学に参加し、住職らの歓待を受けるとともに、東山法門の遺跡の見学を行った。

第2回（国際シンポジウム「フランスの研究者による禪研究」）

日時：2018年6月16日（土） 13:30～17:50

会場：東洋大学白山キャンパス 6201 教室

ディディエ・ダヴァン（国文学研究資料館准教授）

「大燈派の特徴を考えて—公案の扱いを中心に」

張 超（日本学術振興会外国人特別研究員・駒澤大学研究員）

「大慧派禪僧仲溫曉瑩及宋代禪林筆記文」

フレデリック・ジラル（極東学院名誉教授・駒澤大学研究員）

「玄奘と日本の禪宗—新しい寺院のモデルを求めて」

第3回（道元研究国際シンポジウム「世界の道元研究の現在」）

日時：2018年7月21日（土） 10:15～17:40

2018年7月22日（日） 9:40～16:30

会場：東洋大学白山キャンパス 125 記念ホール

7月21日（土）

基調講演

竹村牧男（東洋大学学長）

「脱落即現成の哲学—道元思想の核心にあるもの」

第1セッション

ゲレオン・コプフ（ルーター大学）

「『正法眼蔵』における間主観性—道元を比較哲学者として読む」

アルド・トリートニ（元カ・フォスカリ大学）

「道元とエウリゲナー—東洋と西洋における絶対性への探究」

第2セッション

頼住光子（東京大学）

「道元の思想構造」

フレデリック・ジラル（極東学院名誉教授・駒澤大学研究員）

「『正法眼蔵』の思想に関わるいくつかの問題」

7月22日（日）

第3セッション

ラジ・シュタイネック（チューリヒ大学）

「道元の著作にみる時間の記録と時間の思想」

石井清純（駒澤大学・駒澤大学禅研究所）

「大悟、仏性、古仏心—『正法眼蔵』における本質存在と現象との位置関係について」

第4セッション

何 燕生（武漢大学・郡山女子大学）

「現代中国語圏における道元の発見—聞き取り調査から」

柳 濟東（成均館大学）

「智訥と道元の比較研究—「信」を中心に」

第5セッション

ウィリアム・ボディフォード（UCLA）

「Rewriting Dogen（道元を書き直す）」

第4回（国際シンポジウム「初期禅宗研究の最前線」）

日時：2018年9月22日（土） 14:30～17:50

会場：東洋大学白山キャンパス 第3会議室

程 正（駒澤大学教授）

「吐魯番地方における禪籍の流傳—ドイツ藏吐魯番漢文文書
中の禪籍殘片を手がかりにして」

定 源（上海師範大學敦煌學研究所准教授）

「新出の北宗禅籍『金沙論』について」